

なにもしないのが一番悪いこと

2011.10.03

寒暖の差が激しくなって、函館市内や近郊の子どもたちも咳が出たり鼻水が出たりと体調を崩している子が多いようです。東京方面ではインフルエンザの発症がチラホラと聞こえてきていますが、このあたりはまだまだ平穏のようです。

今年の夏はポリオの生ワクチンが心配ということで、全国各地で医師が個人輸入した不活化ポリオワクチンを打つお子さんがずいぶんと多かったようです。来年の秋には日本でも不活化ポリオワクチンや三種混合ワクチンと一緒にになった4種混合ワクチンとしてはじまるという観測もあるようですが、今の厚生労働省の状況ではどうもそれも危うい印象です。

函館市内のポリオワクチンは今年度秋の分はすでに終わりましたが、北斗市は11月末まで、七飯町は10月末まで続きます。対象のお子さんはすでにポリオの接種を受けられたのでしょうか？あるいは、4種混合になるのだからといって3種混合を控えたり、ヒブワクチンや肺炎球菌ワクチンも報道に左右されて接種を控えたりということになってはいませんか？

子どもにとってのワクチンは命をつなぐかけがえのないものです。3種混合ワクチンにあるものはワクチン以外で免疫を得ることはできません。また、細菌性髄膜炎を予防する2つのワクチンは接種が始まってから、髄膜炎そのものも減り、死亡例もなくなりつつあります。ポリオの流行は日本ではありませんが、中央アジアのタジキスタン周辺では昨年からポリオ大流行が見られています。昨年は457例ポリオのお子さんがいて29例の死亡が報告されました。今年はずでに12例の報告が見られています。ポリオの接種率が低下すればいつこの日本でも流行しておかしくはありません。

日本にいるとついついワクチンをしている恩恵を実感出来なかったり、少なくとも罹ればいいのではという誤解がまだまだ多いのも事実です。どうか正しい情報を元に、ワクチンを積極的に受けるようおねがいたします。